

令和6年度第1回廃棄物減量等推進審議会（会議概要）

令和6年8月26日（月）
鶴岡市ごみ焼却施設研修室

（午後1時58分）

1. 開 会

2. 委嘱状交付

出席の委員13名に対し、鶴岡市廃棄物減量等推進審議会委員委嘱状を交付。
任期は、令和6年8月24日から令和8年8月23日までの2年間。

3. 主催者挨拶（伊藤市民部長）

（審議会成立）

委員18名のうち現在13名の出席で委員の半数以上が出席しており、鶴岡市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第2項の規定により会議開催が成立。

4. 委員紹介並びに事務局紹介（自己紹介）

5. 会長・副会長選任

鶴岡市廃棄物減量等推進審議会条例第5条の規定により委員互選。
選出について委員に伺ったところ事務局に一任との声があったため、会長を小谷卓委員に、副会長を尾川勝則委員にお願いする旨の事務局案を提示し、承認を得る。

6. 会長・副会長挨拶

7. 報告事項

資料に基づき事務局説明

8. 議事

鶴岡市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第1項により、会議の議長を会長とする。

（1）令和5年度鶴岡市一般廃棄物処理の実績について

資料に基づき事務局説明

<質疑応答>

【委員】

不法投棄について、警察と連携して不法投棄されないような取締りを行っているのですか。

【事務局】

警察や県、各団体と協力して、不法投棄を早く発見して、不法投棄をしにくい場所を作ろうということで活動をしております。

パトロールについても、春と秋の年二回、警察と県、我々と地域担当で回っております。

鶴岡地域では郊外地が多くなっており、同じような場所に不法投棄をされている状況にあります。

不法投棄防止の看板を設置したり、地域でそこを散歩の道に使っていただいたりなど、不法投棄されにくい環境づくりを各管理者や地域の住民の皆さんからご協力をいただいております。

【委員】

5年くらい前に、家庭のキッチンのシンクに回転する装置をつけて、魚の頭などの多少大きな生ごみを入れても細分化して下水道に流されるようなシステムを試験的に行うということで、町内の公民館で試験的に使っていただけないかということがありました。今も公民館についています。

その実験結果みたいなものは、取りまとめたものがあるのですか。

【事務局】

お話しいただいたのは下水道課の方で推進させていただいてるディスポーザーというものでございます。

欧米など海外では多く使われておりまして、生ごみのごみ出しをしなくて済むというだけでなく、下水道に流した生ごみを発電や堆肥に活用できるシステムになっています。

4～5年前に一度、各公民館などでモニター調査をさせていただきまして、下水道管の詰まりがないか使用環境などを調査させていただいて、問題がないということを確認しまして、今年の7月からディスポーザーを使えるようになっていきます。

詳しくは、下水道課の方にお問い合わせいただければと思います。

【委員】

あの装置をつけると、家庭から出るごみが結構減ると思います。

ただ、一般家庭で採用できるような値段なのかどうか。

【事務局】

値段の方は、メーカーにもよりますし、キッチンの具合や改造の仕方によっても異なりますので、お問い合わせいただければと思います。

【委員】

ごみが大きく減るような方法は、この審議会でもいろいろ議論はしてきたのですが、例えばリサイクルマークのある紙は資源に出したり、生ごみの水を固く絞ったりなど、各家庭でこういうことをしたらこのぐらいごみが減るという情報を、今後とも広報の中で流していただいて、市民一人一人に頼るしかないのだと思います。

(2) 令和6年度鶴岡市一般廃棄物行政の事業執行について

資料に基づき事務局説明。

参考資料「三川町のごみ減量・リサイクルの取組資料」について、オブザーバーの三川町建設環境課長より補足説明。

<質疑応答>

【委員】

ペットボトルの水平リサイクルについて、ペットボトルは今までと同じ出し方でいいんですか。

【事務局】

出し方は変わりません。出した先の取り扱いについて、このように今年度から取り組んでいますというご説明です。

【委員】

婦人会でも施設見学に来ましたが、みんな考えが変わったらしくて、ピンクの袋を前よりも使うようになったとのこと。

やはり、もやすごみに出すよりも、ピンクの袋に入れて出した方がリサイクルになりとてもいいわけです。

鶴岡では、小学校などいろんなところで見学に来ているのですけれども、三川町さんでも、こちらの見学に来ているのでしょうか。

【オブザーバー】

小学校や町内会の方でも見学に来ているようです。

【委員】

やはり見学に来ると考え方が変わり、葉のシートや飴玉の袋もピンクの袋に入れるようになったので、ピンクの袋に入れる量が多くなったとのこと。

私だけではなく皆同じようなことを話していたので、見学に来てもらうのはやはりいいことだと思いました。

【事務局】

施設見学につきましては、ごみ焼却施設では茶色の袋を焼却処分しており、委員からご紹介のありましたピンクの袋や黄色の袋などはリサイクルプラザ「くるりん館」で中間処理をしています。小学校や婦人会をはじめ、色々な団体がリサイクルプラザやごみ焼却施設に見学に来ていただいております。

特にリサイクルプラザの方では、もやすごみとは違ってリサイクルできるもの、資源という形で、見学の際にご説明をさせていただいておりますので、機会がありましたら見学のお申し込みをしていただければと思います。

【委員】

三川町さんにお伺いしたいのですが、先ほど鶴岡市の方で説明したような、こうした取組の結果、ごみが毎年何パーセント減っているなどのデータなどはござ

いますか。

【オブザーバー】

本町は一般の住宅の敷地が広いので、例えば草刈りをした後の草や剪定枝、家庭菜園から出るものなどが多いという認識でございます。

機会を捉えて、草などは乾燥させていただきたいということをお願いしています。そういった小さい取組みの積み重ねが数字として現れつつあるのかなとは思いますが、

ただやはり大きい要因としては、どこの自治体も同じかとは思いますが、人口減少による減少が大きいとは捉えているところです。

また、本町では4割以上が事業系のごみです。町の規模に対して大きい商業施設があり、住民だけではなかなか減らせないというところもございますので、直接事業所さんとお話しをする中で協力をお願いしています。

【委員】

全国的には色々なごみ減量のニュースも出ています。

小さいところではスプーンやフォークなどは欧米の方ではもうプラスチックは使わず、土に帰るものを使いなさいということでやっていますけれど、やはりまだ日本では、そういう取組みは遅い感じがします。

欧米では、自分達が持ってきた入れ物に酒類やジュース類を入れる計り売りも普通に行われています。

そういうシステムなども必要ではないかと思うのですが、事業者さんに対しても、計り売りみたいなものをできるように働きかけたらどうでしょうか。

【事務局】

今ご紹介ありましたように、プラスチックごみを減らすという取組みを全国でしておりまして、その一番初めの旗印がレジ袋を使わないということでした。

今では、コンビニやホテルでもプラスチックは随分使わないようになってきました。

また、容器を持ってきて詰め替えるという計り売りについても、都会ではある程度進んでいるように聞いておりますので、私たちもそうした動きを研究して、鶴岡地域でもできるかどうかということをお勉強させていただきたいと思っております。

【委員】

ただ今説明がありましたが、プラスチック製品を使わない方向については、事業所の方でも意識がだんだん出てきたなという感覚を持っております。

例えばスプーンやストローはプラスチックから紙に変わってきていて、様々なところでプラスチックを使わないという方向性に少しずつなってきているのではないかなと感じています。

計り売りやレジ袋をもらわないなど、できることは地域で行っていけば、少しはごみが減るのかなと思います。

9. その他

(1) 次期一般廃棄物処理基本計画の策定について

(2) 事業系ごみ手数料の現状について

資料に基づき事務局説明

<質疑応答>
特になし

10. 閉会